

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2007年度に検討課題として挙げられた項目1～4のうち、1および4に関連して、定員の充足率の低さを改善するために見直しを予定している入試制度に合わせて、高度専門職業人教育に適切に対応できるカリキュラムを検討しているところである。具体的には、法学の素養が必ずしも十分とはいえない他研究からの入学者や一部の法学部出身者のための基礎的科目の導入や実践的な外国語能力の向上に寄与できる科目の設置等である。

学内第三者評価

定員充足率の向上を図るため、2009年度実施の入試から入試制度の見直しを検討しているが、それに併せて、高度専門職業人教育に対応できるカリキュラム検討も行っていることは妥当である。入試制度とカリキュラムは連動したものであり、特に、他学部・他研究科からの入学者を求める場合、カリキュラム上の配慮は欠かせない。その成果が期待される。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
進捗状況報告に記載された事項のほかに、前年度から懸案の関西四大学大学院間の単位互換協定に基づく交流および経済学研究科との連携による公共政策プログラムの活性化が望まれる。